

開催にあたって

日本生命財団は、1979年に、人間性・文化性あふれる真に豊かな社会の建設に資することを願って、日本生命の創業90周年を記念して設立されました。

設立以来、次代を担う「児童・少年の健全育成」と「高齢社会への対応」「環境問題への取り組み」という3つの分野につきまして、重点的に助成を行っております。

環境分野では、「人間活動と環境保全との調和に関する研究」というテーマで公募研究助成を毎年実施し、これまでの累計で1,278件、29億3200万円の助成を行って参りました。

当財団は、これらの研究がさらに進展し研究者間の交流や情報交換が円滑に行われることを願い、併せてテーマに関心を持たれる方々の意見交換の場を提供するため、「助成研究ワークショップ」を開催いたしておりますが、このワークショップも今回で37回目を迎えることとなりました。

今回のワークショップでは、京都大学の浅利先生を代表として当財団の「学際的総合研究助成」に採択されたチームから、その研究成果を報告していただきます。

共同主催者であるこの研究チーム、「京都・農山村のSDGs教育拠点化」研究会は、研究者の方に加え、地元企業、地域住民の方々、行政の方も参画されています。2020年10月から2022年の9月までの2年間にわたり、本日の会場でもあるここ京都市京北地域を舞台に、熱心に研究に取り組まれてきました。

今回はまず、代表研究者である京都大学大学院地球環境学堂の浅利美鈴先生から今回の研究プロジェクトの趣旨を説明頂き、続く第1部では研究会メンバーの方々から研究成果を発表いただきます。

第2部では京北小中学校、そして全国中高生SDGsリーダー育成プログラム参加の皆さんから成果発表を行ってまいります。

最後の第3部では、総合地球環境学研究所 所長・ニッセイ財団 会長でもあります山極壽一先生、島根県立大学の田中輝美先生を交えての総合討論を行っていただき、研究者と地域の協働のあり方についても議論します。

このワークショップが、持続可能な地域社会に向けた活動をさらに一歩も二歩もすすめていく契機となることを強く願っております。

公益財団法人 日本生命財団
「京都・農山村のSDGs教育拠点化」研究会